

## アララト・アルマヴィル両州における日本と UNDP の共同事業開所式

令和 8 年 4 月 29 日、青木豊駐アルメニア日本国大使は、国連開発計画（UNDP）アルメニア常駐代表のナティア・ナツヴリシュヴィリ氏とともに、日本政府と UNDP による共同事業を実施しているアララト州及びアルマヴィル州を訪問しました。

アララト州にあるアザト貯水池では、気候変動リスクへの対応強化を目的とした事業（約 1.5 億円）の下、気象・水文観測所と最新のモニタリング機器が導入されました。本事業は、アララト州の地域住民約 16 万 7,000 人に対し、早期警報システムの改善や気象予報の信頼性向上を図ることで、地域の防災能力向上を図るものです。

アララト州とアルマヴィル州にて、ナゴルノ・カラバフからの避難民とホストコミュニティを対象とした事業（約 4 億 5000 万円）では、事業対象地 2 か所で開所式が行われました。アララト州マシス地区のゾラク村では、1,100 人以上の地域住民（その約半数が避難民）を支援するための、多機能コミュニティセンターが開設されました。この施設は、近隣の 5 つの地域約 12 万 6,000 人に裨益し、社会的弱者に対して、包括的なサービス、学習の機会、社会的支援を提供します。アルマヴィル州のハイタグ村では、診療所と避難所の改修が行われました。診療所には最新の医療機器や太陽光発電システムが導入され、避難民 60 人や障害者 70 人を含む 2,740 人の住民が医療サービスを受けられるようになります。

青木大使は開所式の挨拶で、避難民及びホストコミュニティを支援することは非常に重要であると強調しつつ、日本政府として、今後も UNDP やアルメニア政府と協力しながら困難な状況にある人々を支援していきたい旨述べました。



祝辞を述べる青木大使



関係者とテープカットをする青木大使



修復された公共スペース（ゾラク村）



ダンスを披露する子供たち（ゾラク村）



修復された診断所（ハイタグ村）



ダンスを披露する子供たち（ハイタグ村）



地域住民が集う公共スペース（ゾラク村）



日本の協力を示すプレート（アザト貯水池）